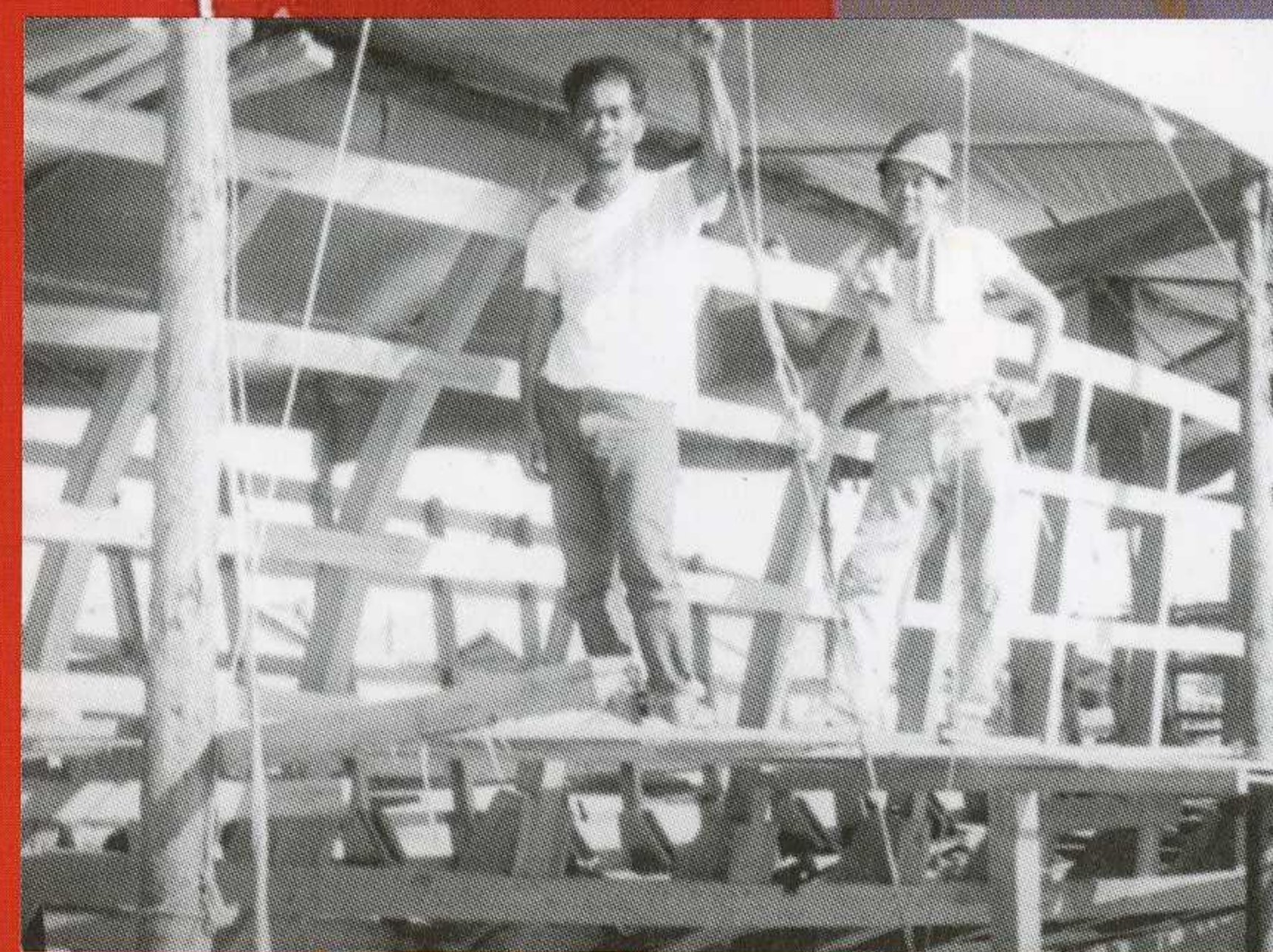


# 海と共に生きてきたうまの先人たちの知恵と暮らしを見ることができます。

## 市指定文化財の越来家船大工4代にわたる資料がウリです!

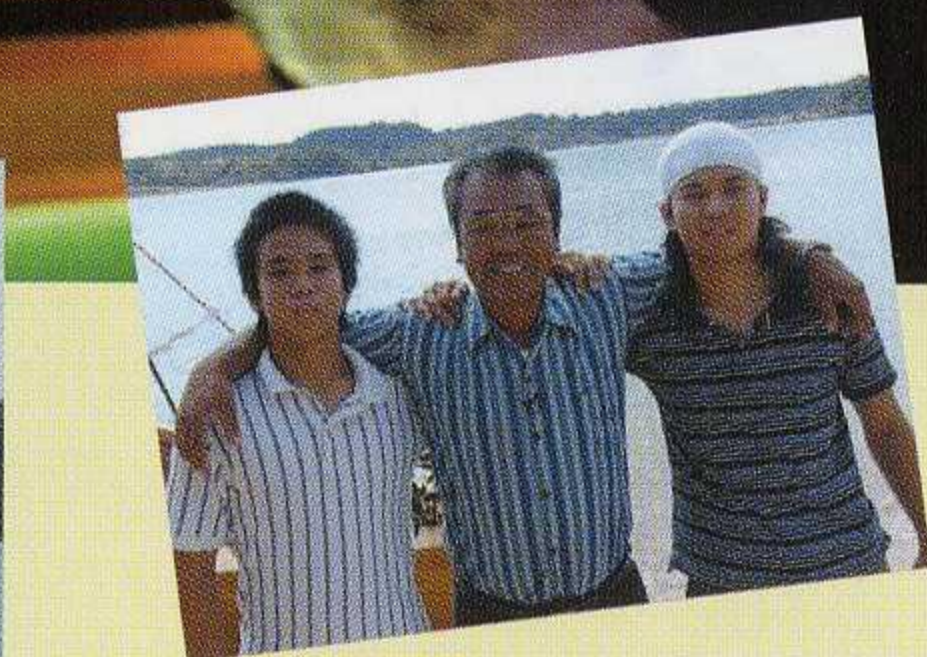
沖縄初の海の文化を中心とした資料を展示。特に平安座島のマールン船にまつわる資料を常設で展示しています。マールン船とは沖縄の各地で山原船(やんばるせん)と呼ばれ、その名称のごとく、沖縄本島の北部地域から南部地域的那覇などへ、往復航路を物資の運搬で活躍していた船です。



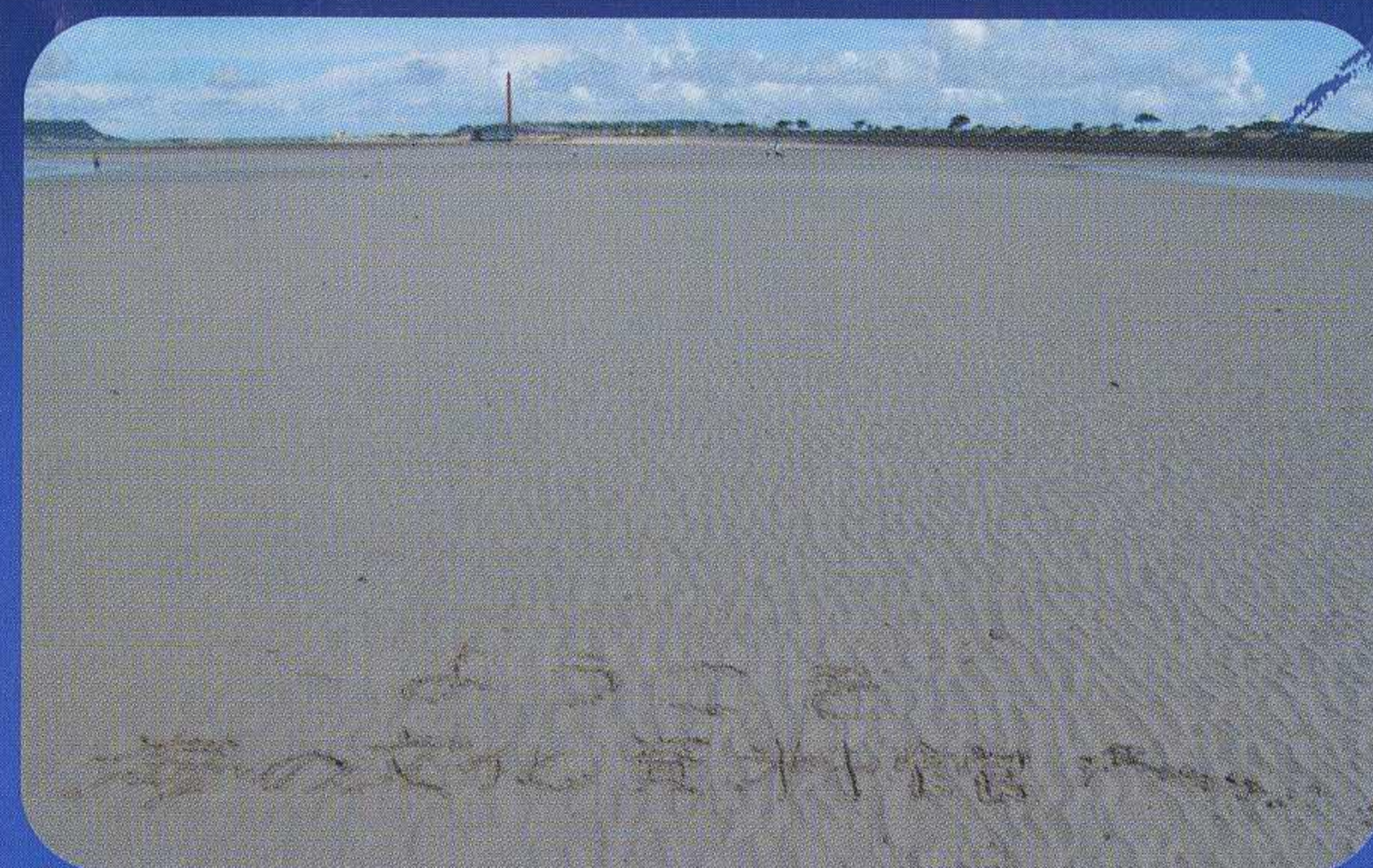
■先代の越来文治さんと宇保賢章さん  
平成12年国地域文化功労賞を船大工とし初めて受賞した故・越来文治さん。約3,000隻の本造船を世に留めてきました。越来文治さんの右腕と呼ばれた名工・宇保賢章さんはうま市の船主たちに多くの影響を与えました。



■うま市指定文化財(マールン船の建造技術保持者)の越来治喜さん。  
越来船大工の3代目としてうま市指定文化財となり、地域の木造船を手がけています。館内ではその治喜さんが造ったマールン船をみることができます。



越来治喜さんは、息子の勇喜さんと治人さんをマールン船のみならず、さまざまな木造船をつくる船大工として平安座島で後継者の育成をしています。



大潮の日には、美しい干潟が見られる与那那の海中道路エリア。干潟には多種多様な生き物が棲息しており、まさに自然の命の宝庫

# 海の文化資料館

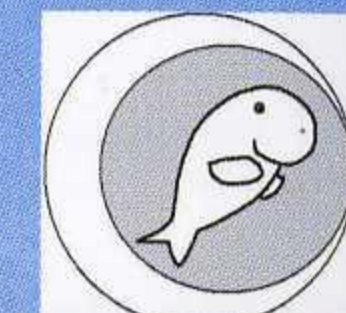
### 概要

- 竣工: 平成14年12月20日
- 開館: 平成15年4月27日
- 構造: 鉄筋コンクリート造2階建て
- 基礎: 杭支持(PHC杭)
- 建築面積: 1,507.917㎡ (456.94坪)
- 延べ面積: 1,974.68㎡ (597.52坪)
- 床面積: 1階1,140.86㎡ (345.29坪) 2階833.82㎡ (252.23坪)
- 資料館面積: 展示場462.92㎡ (140.03坪)、広域交流会議室61.63㎡ (18.64坪)、事務室26.85㎡ (8.12坪)、収蔵庫55.32㎡ (16.74坪)、ロビー93.66㎡ (28.34坪)、その他133.44㎡ (40.36坪)

# 海の資料館はこんな活動をしています。

海の駅あやはし館 2F

大自然の海と共に生きる  
すばらしい体験をしよう。



## 共に輪を広げよう!

海の文化資料館では地域・市民との協働から地域学習や地域づくりなどの活動を展開しています。夏は「よなしろシーアートフェスティバル(砂の芸術大会)」をNPO団体と開催。冬は市民調査会を開き、干潟の生態の調査などを進めています。

## 海の自然と文化を見学しよう!

海の文化資料館では館内の資料を展示し、多くの市民にみていただいています。また、地域のフィールドにも出かけ、市民と一緒に総合学習や生涯学習などのプログラムづくりにも参加しています。

## もっと楽しく知ろう!

海の文化資料館では広域交流会議室を提供し、市民の勉強会や講座、自然体験活動の場として提供しています。また企画展や体験教室も年数回開いています。



■海中道路ができるまで  
館内にはうま市の海中道路がどのようにできたかをグラフィックパネルとビデオ映像、ジオラマで解説しています。

## 勉強会で会議室を活用する市民

広域交流会議室にはOA機器類を整備し、市民の学習や地域づくりなどの活動の場として提供しています。



## 施設の活用もできます。

市民による「フリーアートコーナー浦」の作品の発表や会議などの利用したい市民のみなさんは、お気軽に海の文化資料館のスタッフに声をかけてください。

## もっと学ぼう! 調べよう!

海の文化資料館では市民とのリレーションづくりを図りながら、市民の知的満足のために地域社会にある自然と文化の資源をもとに教育プログラムを提供します。地域の新しい資源を一緒にみつけましょう。



■本物の資料をみながら学芸員のお話しが聞ける  
海や地域にまつわる自然と文化について調べたい市民が海の文化資料館を活用できます。また、学芸員もみなさんと一緒に調べたり、考えたり、展示したりしますので、お気軽に声をかけてください。

## 市民が施設を活用する作品展示会

海の文化資料館では、市民が想いを多くの人たちに発信したい場として展示室やロビー、会議室などで作品展ができるように提供しています。



## 仲原正和の貝類コレクション



■世界中の貝類がここに!  
うま市平安座島出身の仲原正和さんは国内や世界中からいろいろな貝を約20年かけて集めてきました。約3,000個の貝類が海の文化資料館で展示されています。

仲原正和さんは10~11月にかけて海の文化資料館近くの干潟で、貝でつくったヌジベントウと呼ばれる漁具を使って、タコをとっています。

